

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT27289

自然と共に生きるー焼畑と狩猟を通して「命」を考えようー



開催日：平成27年8月8日(土)

実施機関：宮崎公立大学(103大講義室)
(実施場所) 西都市銀鏡地区

実施代表者：永松 敦
(所属・職名) (人文学部・教授)

受講生：小学5・6年生 23名

関連 URL：http://www.miyazaki-mu.ac.jp/info/education/post_177.html

【実施内容】

1. プログラムの目的

本プログラムでは、焼畑後の土地を見学し、植物を中心に調査し、生物多様性について学ぶことによって、そこに築かれている人々と自然との共生について考察させるとともに、山村における焼畑と狩猟の学習を通して、人間と自然との関わりについて、子供たちに、「環境破壊」と「持続可能な賢明な自然利用」の差異を考えさせ、人間がどのように自然と向き合っていくべきかを考える機会を与えた。

また、山村に生きる地元住民の方々より、動物の命を奪うことの意味、資源確保の方法などを、子供たちが直接聞き取ることにより、日常の食事において多くの動植物の命をいただいて、自らの生命維持につなげていることを真剣に考える機会を設けた。

2. プログラムの実施に際し留意、工夫した点

(1) 実習

数年前に焼畑を行った土地と、昨年焼畑を行った土地において、それぞれの土地に生えている植物を採集し、比較することで、植物多様性とはどのようなことかを分かりやすく説明できた。

(2) 班分け

子供たちを4人から6人の班に分けて、それぞれ大学生サポーターを2名から3名配置し、初対面の子供たちが恥ずかしがらず意見交換を活発に行えるよう、昼食時や休憩時など、大学生が中心となり積極的にコミュニケーションをとらせた。

(3) 昼食の提供

昼食は、西都市銀鏡地区の地元住民との綿密な打ち合わせのもと、シカ肉、イノシシ肉、ドングリを使った豆腐など、普段の食卓にはのぼらない食材を使用した食事を提供した。慣れない食べ物に、箸が進まない子供もわずかにいたものの、山村に暮らす人々の食文化に触れさせることができたと思う。

(4) 映像等の使用

講義や猟師の話を聞く際には、映像や画像をできる限り多く使い、子供たちが退屈しないよう努めるとともに、焼畑や山村の暮らしがイメージしやすいように説明を行った。

(5) 実施記録の作成・送付

参加者が学んだ内容を、後日思い出してもらおうことと、保護者の方にどんな内容で実施したか知っていただくため、当日のプログラム内容をまとめた「実施記録」と「集合写真」を、全員に送付した。

3. 当日の様子



開講式



獣肉等を使用した弁当



昼食の様子



焼畑地での実習の様子



地元住民の話



修了式

4. 当日のスケジュール

- 8:30 ~ 9:00 集合・受付
- 8:30 ~ 9:00 開講式
- 9:30 ~ 10:00 講義「焼畑と狩猟」
- 10:00 ~ 12:00 バスにて西都市銀鏡地区へ移動
- 12:20 ~ 13:10 昼食
- 13:10 ~ 13:30 焼畑地へ徒歩移動
- 13:30 ~ 14:30 植物採集を行い、生物多様性について学習
- 14:30 ~ 15:00 銀鏡集会センターへ徒歩移動
- 15:00 ~ 15:30 地元住民との対談
- 15:30 ~ 15:50 ディスカッション
- 15:30 ~ 15:50 修了式
- 16:10 ~ 17:50 バスにて宮崎公立大学へ移動、解散

5. 事務局との協力体制

代表者は、事務担当者と密に連絡をとり、連携しながら準備を進めるとともに、実施内容について工夫すべき点や留意する点などを積極的に議論した。

また、当日の運営補助、司会進行、受講者へのフォローのほか、委託費の執行管理、日本学術振興会との連絡調整、近隣小学校への広報活動、アルバイト学生への指導などの協力を得ることができた。

6. 広報活動

- (1) 本学ホームページへの募集案内掲載

- (2)宮崎市教育委員会への協力要請
- (3)宮崎市内小学校への募集チラシ配布(48校・小学5、6年生人数分)
- (4)宮崎市広報への掲載
- (5)小学生対象イベント告知サイトへの掲載
- (6)報道各社への投げ込み

7. 安全配慮

- (1)受講者の安全配慮のため、参加者を5班(1班4～6名)に分け、各班に2～3名の学生を配置し、事故等が起きないように目が行き届くようにした。
- (2)事前に参加者全員がレクリエーション保険に加入した。
- (3)昼食時に野獣肉や山菜、そばを提供することから、事前に参加者のアレルギー有無の確認を行った。

8. 今後の発展性、課題

今回、子供たちに初めて焼畑の現場を見せた意義は大きかった。急斜面の畑地、耕作後の畑地に自生する山茶などを目の当たりにすることができ、人間と自然との関係を知る絶好の機会となったと言える。地元の方に依頼して、山茶の葉を火で炙り、薬缶にいれて茹でるという山茶の作り方を再現してもらったところ、奥深い山中においてもおいしい茶を飲むことができることに、全員が驚いた様子だった。

また、植物に関しては、宮崎大学名誉教授の足立泰二氏にも同行していただき、各グループに分かれて植物採集を行い、その植物の特性についてご講義いただいた。

最後のまとめとしては、地元の方々と、畑地の獣害の問題について、鹿の個体数に増加がなぜ起こるのか、その対策について語り合った。適度な狩猟圧を加えることの重要性について説明し、人間によって作られる自然、自然の中の人間の生き方、ひいては、「人間と自然との理想的な共生の在り方」について、参加者も実体験に即して、真剣に考えるよい機会をつくることができたのではないかと考えている。

今回はじめて、人文・自然の両科学から体験学習を行うことができ、学際性あふれる研修となった。これからも継続して実施する方向で検討したい。

【実施分担者】

宮元 章次 宮崎公立大学 地域研究センター長(人文学部・教授)

【実施協力者】 13 名

【事務担当者】

福元 康敏	企画総務課・企画係長
上園 祥介	企画総務課・企画係
平井 美幸	企画総務課・企画係
合澤 美樹	企画総務課・企画係(地域研究センター)